

# 学生の興味に沿った業務説明について

鷲尾 直紘<sup>1</sup>・土井 美里<sup>2</sup>

<sup>1</sup>近畿地方整備局 姫路河川国道事務所 工務第一課 (〒670-0947兵庫県姫路市北条1-250)

<sup>2</sup>近畿地方整備局 浪速国道事務所 工務課 (〒573-0094大阪府枚方市南中振3-2-3)

現在、社会全体で労働人口が不足し、近畿地方整備局においても若手職員が少ない現状がある。優秀な若手の人たちに私たちの職場の魅力を伝え、選んでもらうために、学生に向けて業務説明を行った。その際、何をどう説明するのか、なにが求められているのか、学生が興味を持つことは何か等を考えて説明に挑んだ。説明後の反省点をまとめ、再度一年後に業務説明を行った。そのときに考えたことや取り組みについて報告する。

キーワード 若手職員，説明会，人材不足，リクルート

## 1. はじめに

近年の建設業界は、リニア中央新幹線建設，東京オリンピック開催に伴うインフラ整備，相次ぐ震災による復興事業など，需要は高まっているものの，建設業界に関わる労働者の減少及び高齢化が進行している。1998年に685万人いた建設業界の労働者は，2012年には503万人になり，約3割の労働者が減少している(図-1)。また，就業者の高齢化及び若手の人材不足が進行している現状があり，このままでは，建設業界の存続に不可欠な技能の継承も困難になりかねない状況となっている(図-2)。<sup>1)</sup>

近畿地方整備局でも同様に，労働者の人数が減少しており(図-3)，それに加えて若手の人材が少ない状況となっている。特に18歳から34歳までの人数が少なく，35歳以上の人数が多くなっている(図-4)。

近畿の河川や道路をつくり，守っていくためには，近畿地方整備局はなくてはならない存在である。なので，このように若手職員が少なく，担い手不足となっている状況下において，如何に高い志を持った若手の人たちに，近畿地方整備局の魅力を伝え，選んでもらうかが大きな課題であるとする。

そこで，私は若手職員として，学生の目線に立ち，学生が興味を持つためには，どのような内容を，どのように伝えればいいのかを考え，ひとりでも多くの同世代の学生を私たちの職場に迎えたいという思いで学生を対象とした業務説明会(以下，業務説明会)を行った。2年間の結果と考察をまとめた。

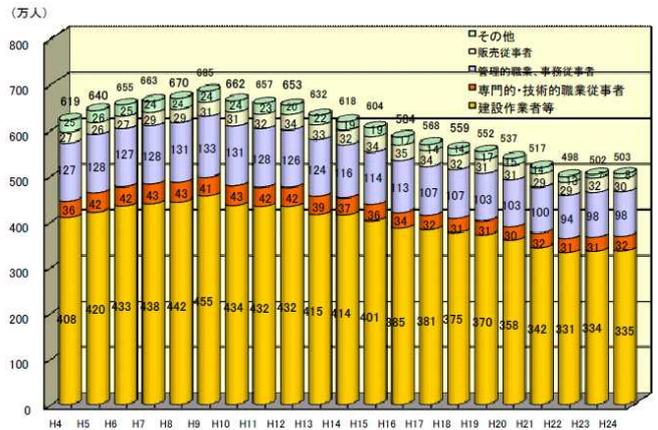


図-1 建設業界の労働者減少 出典：総務省『労働力調査』

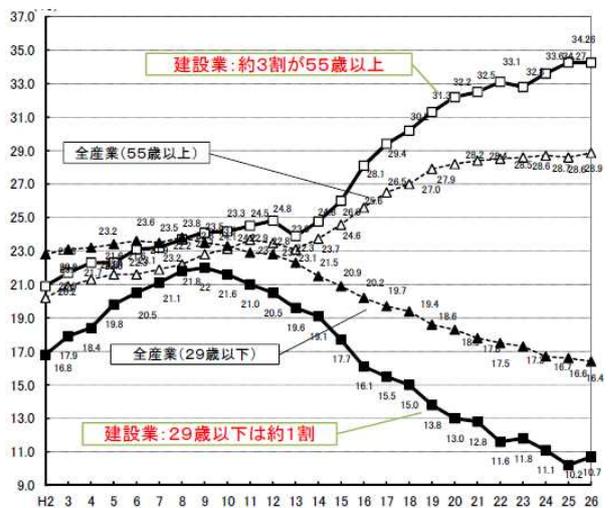


図-2 建設業界の高齢化 出典：総務省『労働力調査』

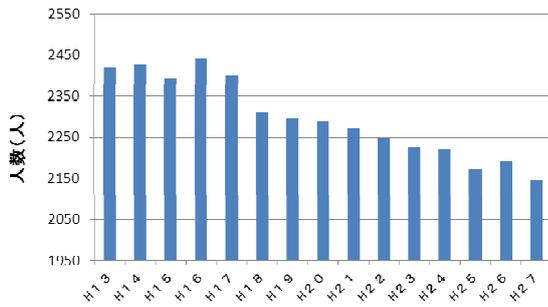


図-3 近畿地方整備局の人口推移

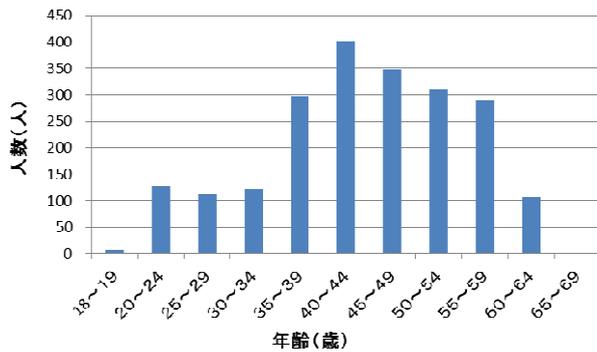


図-4 2015年近畿地方整備局年齢別人口

## 2. 一年目の取り組み

国土交通省に入省して1年目に、就職活動を控えた学生に対して、近畿地方整備局の取り組みを伝えることで、多くの学生に近畿地方整備局を進路として希望してもらうためのリクルーターとして、業務説明会で説明する機会を得た。

説明者として、学生の前で近畿地方整備局の魅力を伝えるにあたって、自分にしかできないことは何かと考えた。学生に興味をもってもらうためには、学生が関心もっていることや、気になっていることについて説明を行うべきである。2013年の時、姫路河川国道事務所調査課にインターンシップに行った経験から学んだことや、学生時代の関心や疑問などを思い起こし、説明内容に加えることにした。1年目の私が説明することの強みは、記憶が鮮明な分、当事者の視点で就職に関する内容を詳細説明できることや学生の考えが理解できることだと考えたためである。

学生時代の関心や疑問に思っていた点の説明のひとつとして、具体的には、発注者と受注者(コンサル・ゼネコン)の関係やそれぞれの道路事業を行う上での役割についての説明である。

就職活動の際、企業説明会では自社に関する紹介はあるが、他機関との関係まで説明してくれるところはなく、公務員、ゼネコン、コンサルの関係についての情報が乏しかった経験から、学生が進路を選択するためには、公務員、ゼネコン、コンサルの関係や違いに関する情報が

必要であると考えた。

次に、国家公務員の魅力を伝えるとともに、近畿地方整備局の事業規模の紹介をすることや、国、都道府県、市町村で対象とする道路の規模が違うことについて伝えることで、国家公務員と地方公務員の違いについて説明を行うことにした。

## 3. 一年目の業務説明の結果

当日の業務説明会は、40人ほどが座れる教室で、プロジェクターを用いてスクリーンに説明資料を投影し説明した。参加した生徒は20から30名ほどであった。説明後に質疑応答の時間を設けており、業務説明会で学生から出た質問の内容は主に次のようなものがあった。

「機械の分野はどんな仕事をしているのか」、「単身赴任はあるのか」、「資格は必要なのか」、「大学院に行ってから公務員になることで不利になることはあるのか」(表-1)。

表-1 学生からの質問内容

No.	発表会の質問
1	機械の分野はどんな仕事をしているのか
2	単身赴任はあるのか
3	単身赴任の場合は住居は確保されるのか
4	資格は必要か
5	資格を取得するときに会社からの援助はあるのか
6	企業等に就職していても国交省に再就職することは可能か
7	面接ではどんな質問が出たのか
8	大学院卒から公務員になることで不利になることは
9	誰でも説明会の発表者となりうるのか
10	なぜ公務員を選んだのか
11	どの分野を勉強すべきか
12	一日どれくらい勉強したのか
13	公務員試験を始めた時期はいつか
14	大学進学か公務員になるかで迷っている

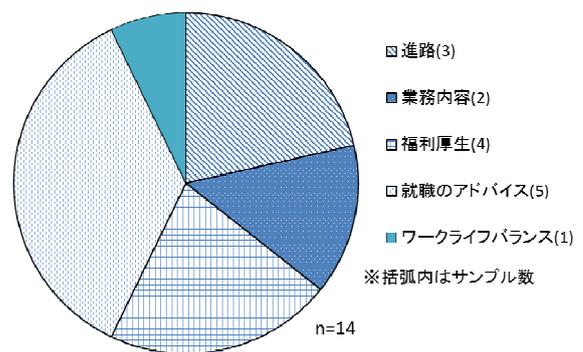


図-5 業務説明での生徒からの質問内容

業務説明会で出た質問内容を分類した。分類項目は「進路」、「業務内容」、「福利厚生」、「就職のアドバイス」、「ワークライフバランス」の5項目である。学生からの質問には、「単身赴任の場合住む場所は確保されているのか」といった福利厚生に関する質問や、「一日に公務員試験の勉強は何時間くらいしたのか」と

いった、就職のアドバイスに関する質問が多い一方で、業務内容に関する質問が比較的少ない結果となった(図-5)。

学生からの質問の中には、「なぜ公務員を選んだのか」、「大学院に行くか、公務員になるかで迷っている」といった公務員と他の進路との比較に関する質問があり、公務員とゼネコン・コンサルの違いといった自分が疑問に思っていた点を説明したことについて、学生の求めている情報と、説明をした内容の方向性としては共通点があったと考える。

業務内容に関する質問よりも公務員試験の質問が多かったことから、業務内容を話すよりも、就職活動の実体験を話した方が、学生の関心にあったプレゼンテーションになったと考察する。ただし、リクレーターとして学生に対し、近畿地方整備局の魅力について説明するためには、説明内容の中に業務内容を加えることは必要不可欠である。就職活動に関する情報と、業務内容に関する情報の両方を学生に伝えることが重要であると考え。

#### 4. 二年目の取り組み

一年が経って社会人二年目となり再度業務説明を行うこととなった。一年目の業務説明の結果から工夫すべきと考えた点が二つある。ひとつは就職活動に関する情報を盛り込むこと、もうひとつは生徒が興味関心を持つような業務内容の説明にすることである。

上記の考えなどから、大きく次の点について工夫することにした。まず、学生は就職のアドバイスについて関心が高かったことから、就職活動の実体験を話すことにした。次に、業務について知ってもらうために、整備効果のように一般の人の目に触れる内容を織り交ぜながら説明することにした。

また、一年目の説明の際に、女子生徒も参加していたことから、女性にしか気づかない点もあると考え、若手職員の土井係員に職場環境等について、女性の目線で説明してもらうことにした。

場所は一年目と同様に、大阪府立高等専門学校の教室で20から30名程度の生徒に対して業務説明を行うこととなった(写真-1)。

#### 5. 二年目の業務説明の結果

業務説明を行った後、生徒から質問を受け付けた。参加した生徒は積極的に質問をしており、真剣さを感じることができた。質問は「国土交通省に就職したのはなぜか」、「異動はあるのか。また、期間はどれくらいか」、「残業は多いのか」などがあつた(表-2)。

一年目と同様に質問内容を分類した。分類項目も同様である(図-6)。「国土交通省に就職したのはなぜか」



写真-1 業務説明を受ける生徒

表-2 学生からの質問内容

No.	業務説明会の質問
1	異動はあるのか
2	異動先での勤務期間はどれくらいか
3	給料はいくらか
4	忙しくなる期間はいつか
5	残業は多いのか
6	女性が少なくて困ったことは
7	調査課や工務課まで希望は出せるのか
8	国土交通省のどこに魅力を感じたのか
9	国土交通省に就職したのはなぜか
10	大阪府と迷っており国を選ぶメリットは
11	民間と公務員で就職は迷わなかったのか

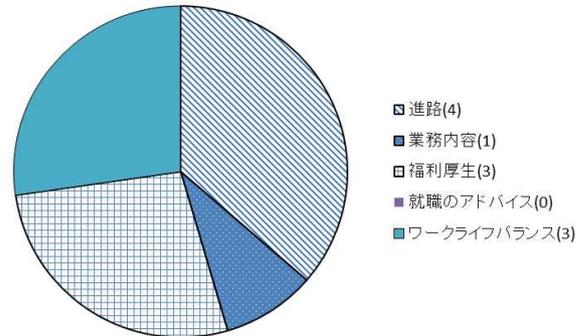


図-6 2年目の業務説明での生徒からの質問内容

といった進路に関する質問が多かった一方で、就職に関するアドバイスの質問がなかった。

また、後日担当の教師からお礼の言葉とともに、「実体験に基づいた就職活動の流れについて、参考になった」、「女子生徒からは女性職員からの話が聞けたことで安心することができたという話が聞けた」というコメントをいただいた。

就職に関するアドバイスの質問がなかったことは、参考になったという話があつたことから、若手職員が実体験に基づいた話をしたことで疑問が解消され、質問がなかったと考える。

質問内容は大きく二つに分けることができ、ひとつは就職するまでの内容で、もうひとつは就職してからの内

容である。就職するまでの内容には、国土交通省を選んだ理由に関する質問が大半である一方で、就職の流れについて参考になったというコメントから、就職方法についても関心があると推察する。就職してからの内容には仕事内容について質問がほとんどなかった一方で、仕事以外への影響を気にした質問が多かった。社会人になるにあたって、ワークライフバランスに関心が高まっていることが考えられる。

#### 参考文献

- 1) 国土交通省HP：当面の建設人材不足対策  
([http://www.mlit.go.jp/report/press/totikensangyo14\\_hh\\_000368.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/totikensangyo14_hh_000368.html))
- 2) 国土交通省近畿地方整備局採用サイト：  
(<http://www.kkr.mlit.go.jp/recruit/>)

## 6. 今後の課題

### (1) 課題と考える点

業務説明を行った後の生徒の反応から、次の課題が挙げられる。

国土交通省を選んだ理由について質問が多かったことから、国土交通省の魅力や、実際に働くことで良かったと感じたことを業務説明の内容に加えることで、生徒の関心に沿った説明ができる。

次に、ワークライフバランスに関する質問が多かったことから、ワークライフバランスに関する取り組みについて、説明に加える必要があると考える。

### (2) 今後も続けるべきと考える点

就職の流れについて説明したことで、参考になったと声が聞けたことから、今後も就職の流れについて説明を行うべきであると考察する。

女性職員の土井係員に参加してもらうことで、女性目線での話ができたことから、女性生徒から反響があった。女性生徒の疑問に答えるためにも、女性職員に積極的に参加してもらうべきであると考える。

また、業務説明後の生徒からの質問内容を記録し蓄積することで、学生が興味関心を持っていることを分析し、次回の業務説明会の説明内容に盛り込むことができるため、今後も業務説明会を行った際には、生徒からの質問をまとめるべきであると考える。

二年に渡り業務説明会で説明を行い、生徒が真剣に進路について考えていることが感じられた。近畿地方整備局という進路の選択肢が魅力的であることを伝え、高い志を持った若手の人材が就職してくれるように今後も業務説明会を続けて行くべきである。

### (3) 業務説明から得たこと

今回業務説明を行い、限られた時間の中で何を伝えるべきか、何を伝えられるのかを考えることで、説明する能力の向上につながったと感じている。